

ドレミファ器楽

フル・スコア


SK-52

モーツァルト

18世紀のサロンにて

小島里美 編曲

モーツァルトの数々の名曲の中で、クラシックやピアノ曲ファンに限らず、多くの人々に親しまれている曲「18世紀のサロンにて」。正式には、ピアノソナタK・V545 第一楽章である。ここではその有名なテーマを用い、器楽合奏用に編曲してある。

〔演奏上の注意〕イントロは明るく元気よく、4小節目のアコーディオンのスケールは、テナーからソプラノまで、一つの流れになるようにする事。ソプラノは、一気にスケールを弾く事が難しい場合、上手な人のソロにする、或いは  のように分けて演奏するとよい。①からピアノのテーマである。5小節目から、3・4拍目のメロディーが木鉄琴に移り、原曲とは多少違ってくるが、ピアノはできれば経験者に担当してもらった方がよいだろう。②の5、③の5小節目からあるアコーディオンのスケールも、イントロ同様、一つの流れになるようにする事。

尚、ここでは打楽器の編成にも注意して欲しい。ティンパニーが単独のパートになっており、できれば4台欲しいが、3台の時は“GCD”にチューニングし、Fの音は小音符の方の音をたゞけばよい。又、全くなくても、全体演奏にはそれ程差しつかえない。打楽器のパートには、シンバル・トライアングル・タンバリンが含まれており、トライアングルとタンバリンが、同時に出てくる所があるので、2人で分けるか、1人の場合は、トライアングルをあらかじめ譜面台に吊しておき、右手でトライアングル、左手でタンバリンを鳴らすとよい。又、1種類の楽器を数個用いる必要は全くない。又、小太鼓のパートに、ドラムセットを想定して、ハイハットシンバルも書かれており、これは是非加えて欲しい。しかしない場合には、小太鼓2台（2人）を用い1人はハイハットシンバルの所を、ブラシで小太鼓を小さくたゞくようにすればよいだろう。

アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、及び木琴、鉄琴に於て和音が書かれてある箇所は、和音弾きをせず、各々が一つずつ音を弾き、和音をつくって下さい。

(♩=116)

フルート  
(無くても)  
演奏可能

ソプラノ  
リコーダー

鍵盤  
ハーモニカ

ソプラノ  
アコーディオン

アルト  
アコーディオン

テナー  
アコーディオン  
(オクターフ  
上に記譜)

バス  
アコーディオン

木  
琴

3台の時は(小音符)の方を叩く

# モーツァルト 18世紀のサロンにて

小島里美

鍵盤ハーモニカ

(♩=116)

The musical score is written for Harmonica and consists of several systems of staves. The first system is in the treble clef, starting with a *f* dynamic and a *mp* dynamic. It includes a circled 'A' and a '12' marking. The second system is also in the treble clef, starting with a circled 'B' and a *mf* dynamic, with a '4' marking. The third system is in the treble clef, featuring a *mf* dynamic and a '10' marking with the instruction '(演奏)'. The fourth system is in the bass clef, starting with a *p* dynamic. The fifth system is in the bass clef, starting with a *mp* dynamic and a *cresc.* marking. The sixth system is in the bass clef, starting with a *f* dynamic. The seventh system is in the bass clef, starting with a *p* dynamic. The score includes various musical notations such as notes, rests, slurs, and dynamic markings.